

強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的考え方
- ・ 強度行動障害の状態
- ・ 行動障害が起きる理由

本題に入る前に・・・

- 強度行動障害支援者養成研修（以下、強行研修）
改定のポイント（2020年4月～）
- 強行研修（基礎研修）で学ぶこと

改定のポイント

- 継続点 1 カリキュラムを行動援護従業者養成研修と分けない
- 継続点 2 基礎・実践研修併せて24時間のプログラム
- 継続点 3 初心者でも理解できる内容（特に基礎研修）

- 変更点 1 カリキュラムの大項目ごとの時間配分※
- 変更点 2 カリキュラムの中・小項目※
- 変更点 3 ストーリー性を重視したプログラム構成

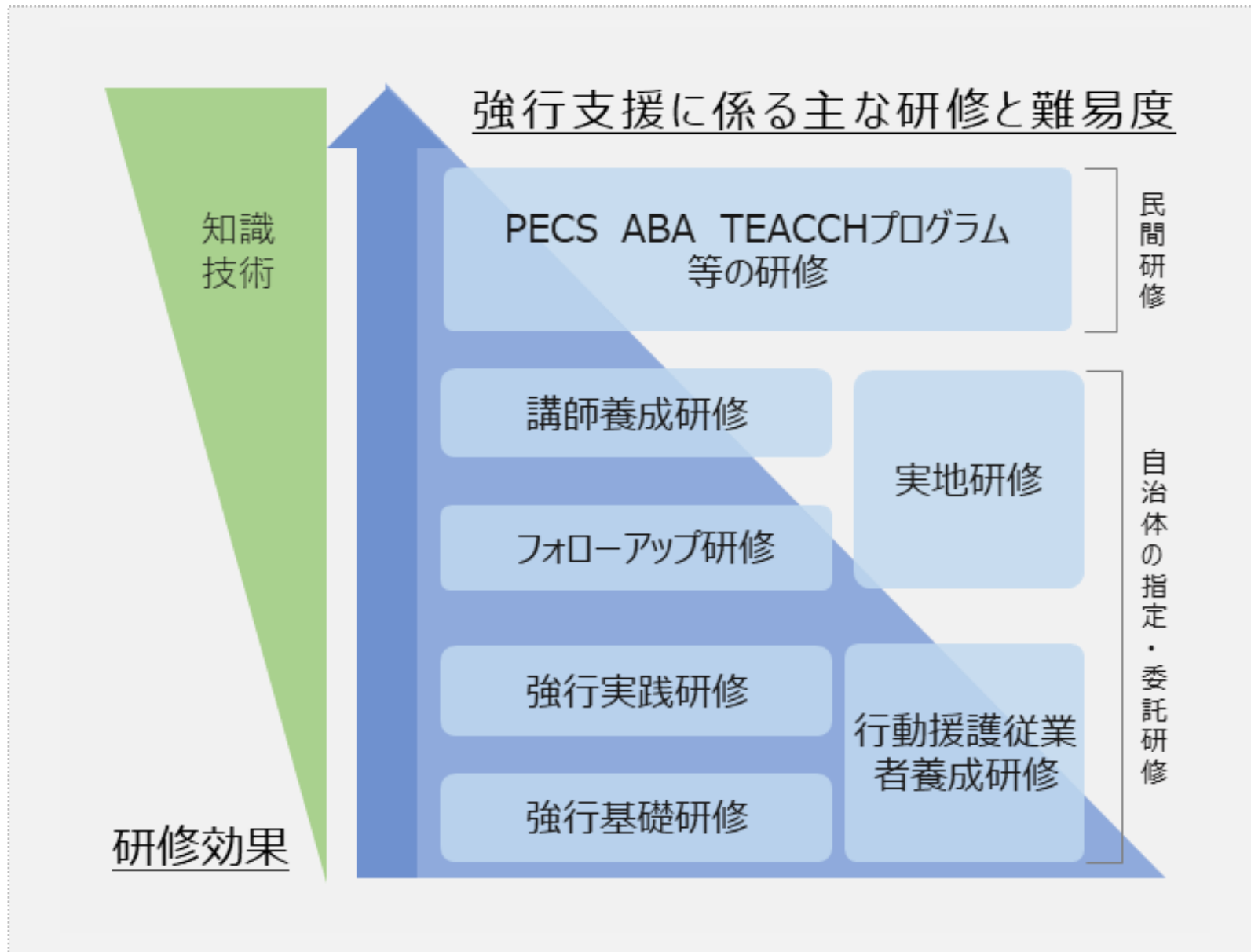


次ページスライド参照

研修のストーリー & 到達点

ストーリー	基礎研修	実践研修
Step 1	強度行動障害について基本的なことを知る	支援を組み立てるための基本的な流れの確認
Step 2	アセスメントに基づいた（情報を収集し、解決すべき課題を整理した上での）個別支援の大切さを理解する	アセスメントの具体的な方法を学ぶ
Step 3	支援の具体的な方法を知る	支援手順書の作成方法を学ぶ
Step 4	チームプレイの重要性を理解する	記録の方法と支援手順書の修正方法を学ぶ
Step 5	適切な支援を続けていくための知識を得る	組織として取り組むことの重要性を学ぶ
到達点	計画された支援の根拠を理解し、決められた手順通りに支援をすることができる。	チームの動きをイメージし、支援の手順を考え文章化する。 また、支援結果に合わせ、支援及び手順の修正をすることができる。

強度行動障害が現れている人への支援スキル 修得のためのステップで見る本研修の位置づけ



この時間で学ぶこと

- 強度行動障害の状態になぜなるのかを学びます。
そして、**予防**の重要性、**軽減**方法を学びます。
- 強度行動障害が軽減されることが最終目標ではなく、
強度行動障害という状態になっている人、
強度行動障害という状態になりやすい人が、
地域のなかで安心して幸せに生活すること
だということを確認します。

この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の基本
- ② 強度行動障害とは
- ③ なぜ強度行動障害という状態になるのか
- ④ 児童期の予防の大切さ
- ⑤ まとめ：強度行動障害と社会参加

①支援の基本

支援とは

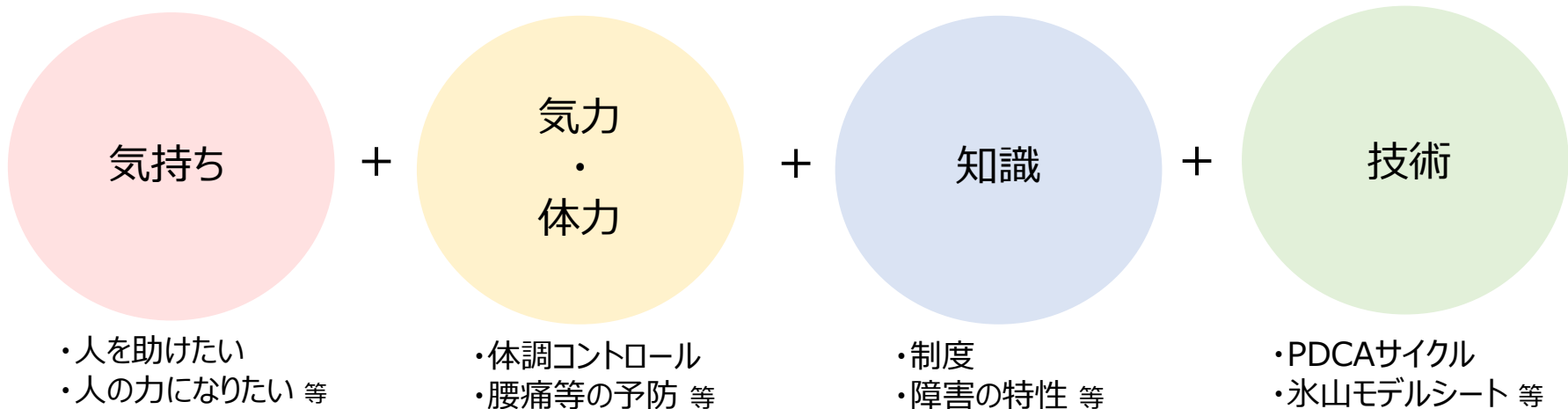
他人を支えたすけること

労力や金銭などの面で、その活動や事業を助ける意を表す



出典：三省堂大辞林第三版

支援の専門家が、支援を提供する際に必要なもの



基礎的な支援の流れ



よりよい支援の流れをつくるためのポイント



2 情報整理時、**ICF**を活用する



2 情報分析時、**氷山モデルシート**を活用する



チームで支援の手順を統一するために、
支援手順書を作成・共有する



11項目におよぶ支援の流れは、大きく下記の4つに分けることができる。

- 1～6 = 計画 (Plan)
- 7・8 = 実践 (Do)
- 9・10 = 評価 (Check)
- 11 = 改善 (Action)

⇒これを「**PDCAサイクル**」といいます

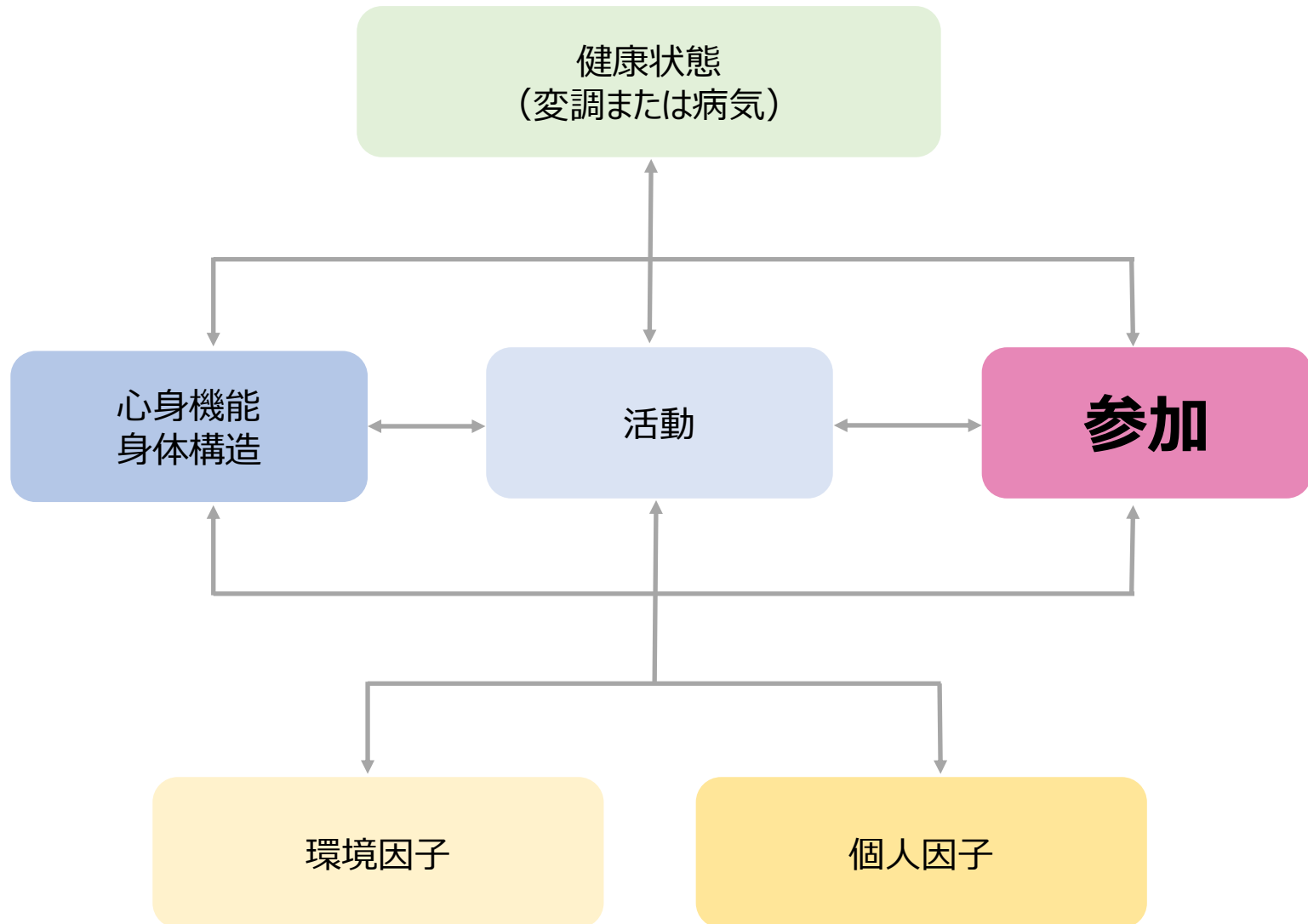
業務を継続的に改善していく手法。品質管理の国際基準であるISO9001や、ISO14001などにも考え方が採用されている。



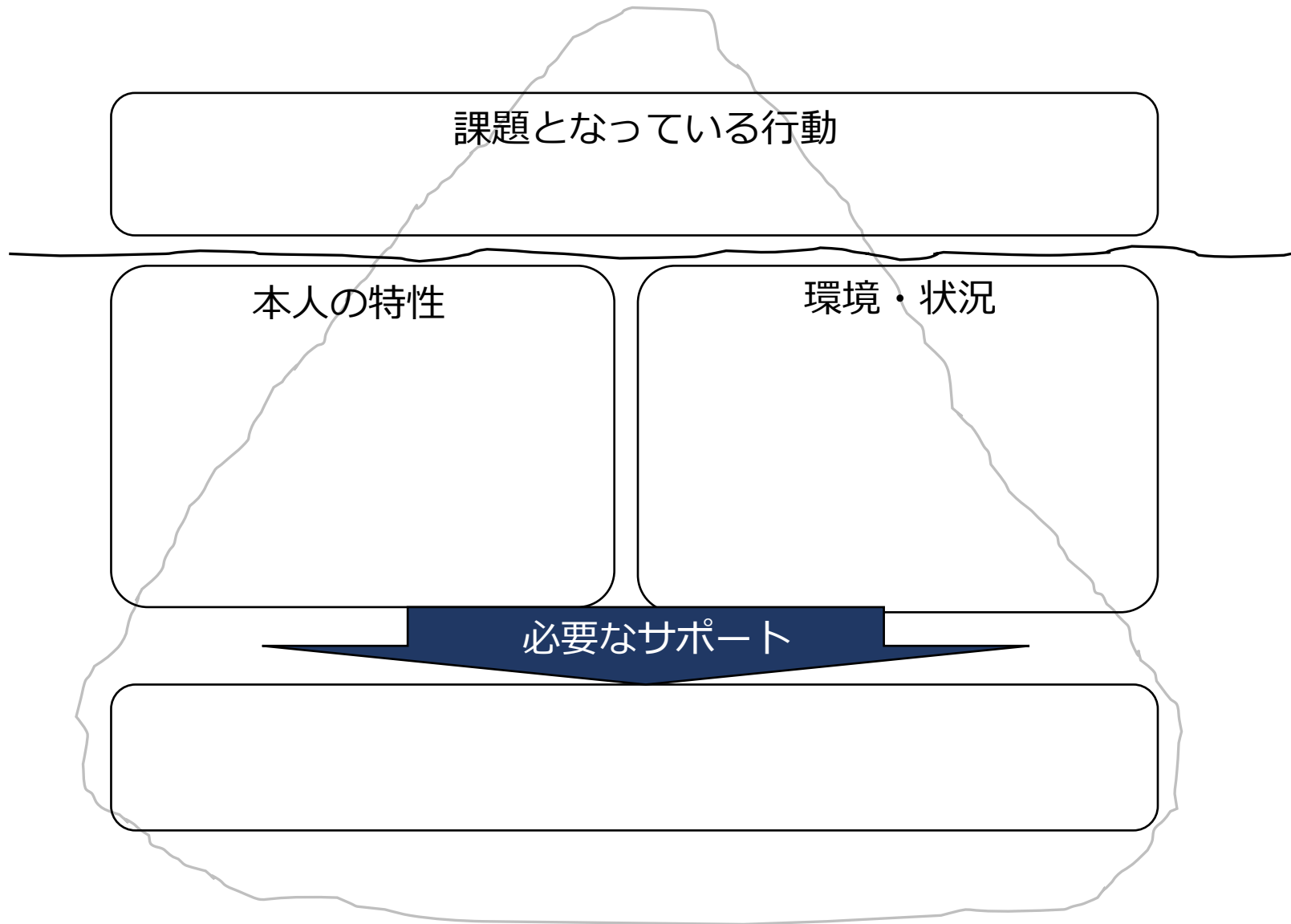
よりよい人生へと向かう

ICF（国際生活機能分類）とは

- ▶ International Classification of Functioning, Disability and Health 2001年5月 WHO総会で採択
- ▶ ■人間全体を見る ■個別性をとらえる ■サービスの効果を全体的にとらえる ものとして使われている



これが「冰山モデルシート」です



これが「支援手順書（例）」です

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	Tさん	記入者	支援員B
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前に手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。(活動カードを外す) ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える *Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを1分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「1分でおしまい」と声掛け。 タイマーがなったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す) 家族にTさんの様子を伝える。			

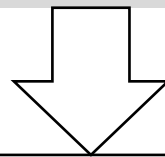
- * スケジュール確認の手順
- ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
 - ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
 - ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える

- * 本人と関わる際の注意点
- ・声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
 - ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
 - ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

②強度行動障害とは

「強度行動障害」とは

自傷、他傷、こだわり、ものの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語



- × もともとの障害
- その人の状態のこと

③なぜ強度行動障害という状態になるのか

- ・あるショッピングモールでの出来事です。
- ・放課後等デイサービスの活動の一環で、数人の子もたちでお買い物体験に来ていたAさん。
- ・あるショッピングモールで、たまたま通りかかったBさんを押してしまいました。
- ・困っているのは誰でしょう？



自閉スペクトラム症の
Aさん

たまたま通りがかった
Bさん



Aさんを連れてきたスタッフの
Cさん

一般的には、「わけのわからないまま押されてしまったBさん」
「Aさんを連れてきたCさん」

と答える人が多いかもしれません。

実は、Aさんも困っています。

なぜなら、ショッピングモールのようなうるさい環境が苦手なほか、
そういった環境にいつまでいなければいけないのか分からないからです。

「うるさくていやだよ～」

「いつまでここにいなければいけないの？」

「はやく帰りたいよ～」

障害により、こういった気持ちを言葉で
上手に伝えることができない

その困り具合を・・・

“目の前に通った子を押す”という行動で表現



だから答えは、「みんな」です

ということを、この研修の受講者には理解して欲しいのです。

Aさんのように、障害からくる苦手さを持つ人たちは、困っています。

障害からくる苦手さ

先の予測をすることが難しい

見えないものの理解が難しい

話し言葉の理解が難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

話し言葉で伝えることが難しい

やり取りの量が多いと処理が難しい

少しの違いで大きな不安を感じる

聴覚の過敏や鈍麻がある

⋮



不安

緊張



不安や緊張から

逃れたい

不安や緊張を

伝えたい

不安や緊張に

気づいてほしい

でも方法がわからない



気持ちを **行動** で表す



- そのまま、障害からくる苦手さが解消されないと、さらに、激しい行動をとることがあります。



- また、適切な行動を教えてもらう機会がなかったり
- 自分の気持ちを伝えるために激しい行動を取った時、周囲がその行動を止めるために本人が望むままの対応を繰り返していると、「激しい行動をすることで自分の気持ちが伝わる」と理解し、激しい行動が定着してしまうこともあります。

このように、

- ☑ 適切な行動を教えられていない
- ☑ 周囲が誤った対応を繰り返す



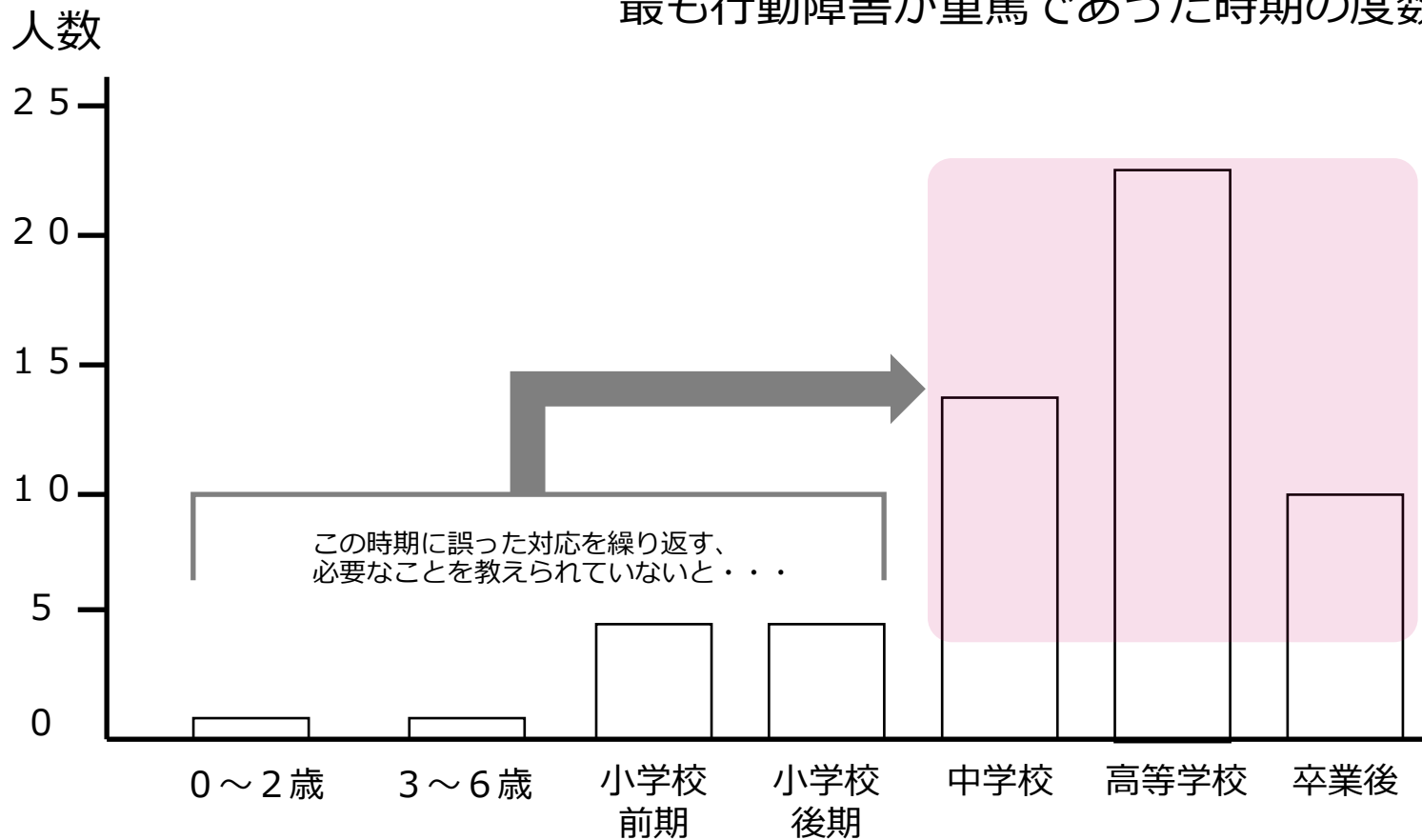
行動が激しくなっていく

= 「強度行動障害の状態」

といいます。

④児童期の予防の大切さ

最も行動障害が重篤であった時期の度数分布



厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業「強度行動障害の評価基準等に関する調査について」報告書
社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会

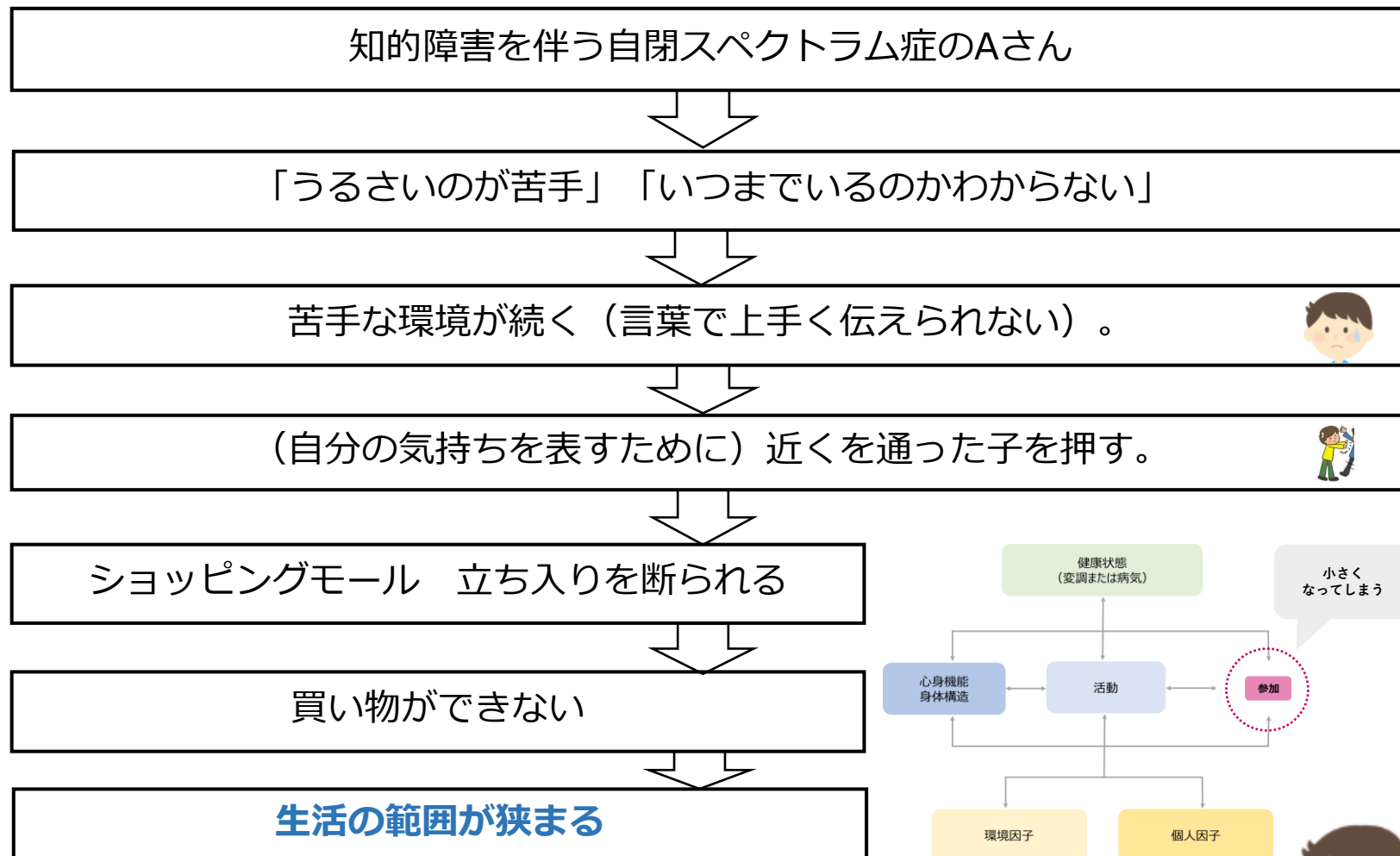
だから、幼児期・児童期の適切な関わり（例えば、本人に合った学び方でコミュニケーション方法を身につけることなど）が重要

⑤まとめ：強度行動障害と社会参加

—誰もが幸せに生きていくことができる社会に—

▶適切な支援がない場合

先ほどのAさんの事例で考えてみましょう



事業所から利用を断られることも……。そして、より行き場のない生活へ



▶適切な支援がある場合

知的障害を伴う自閉スペクトラム症のAさん

本人の特性に合わせ、騒がしくない時間帯にお店に行く
いつまでお店にいるか本人にわかるように伝える。

「合理的配慮」といいます

「分かる」「快適」

「充実」「安心」

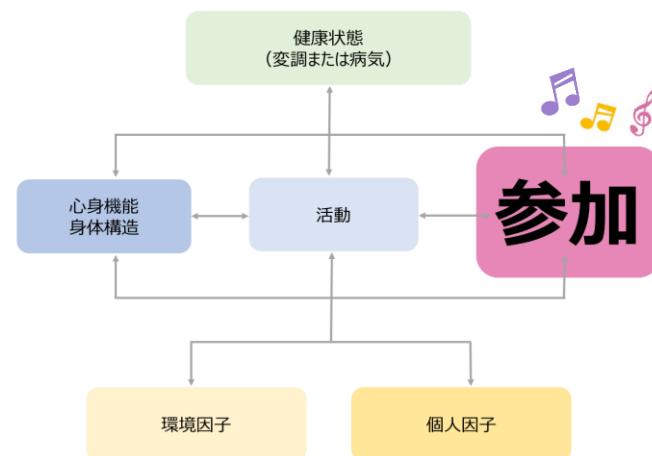


・外出を楽しむ ・違うお店でも買い物ができる

社会参加が進む



地域の中で安心して幸せな生活ができる



強度行動障害の状態になっている人は、
「**困った人（子）**」ではなく「**困っている人（子）**」
＝合理的配慮が必要な人

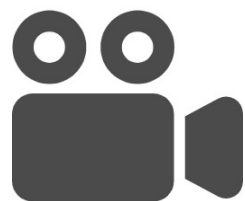
私たち支援者は、
私たちの理解や配慮によって

- ☑強度行動障害の状態にならないよう**予防**することができる
- ☑既に現れている強度行動障害を**軽減**できる

そして

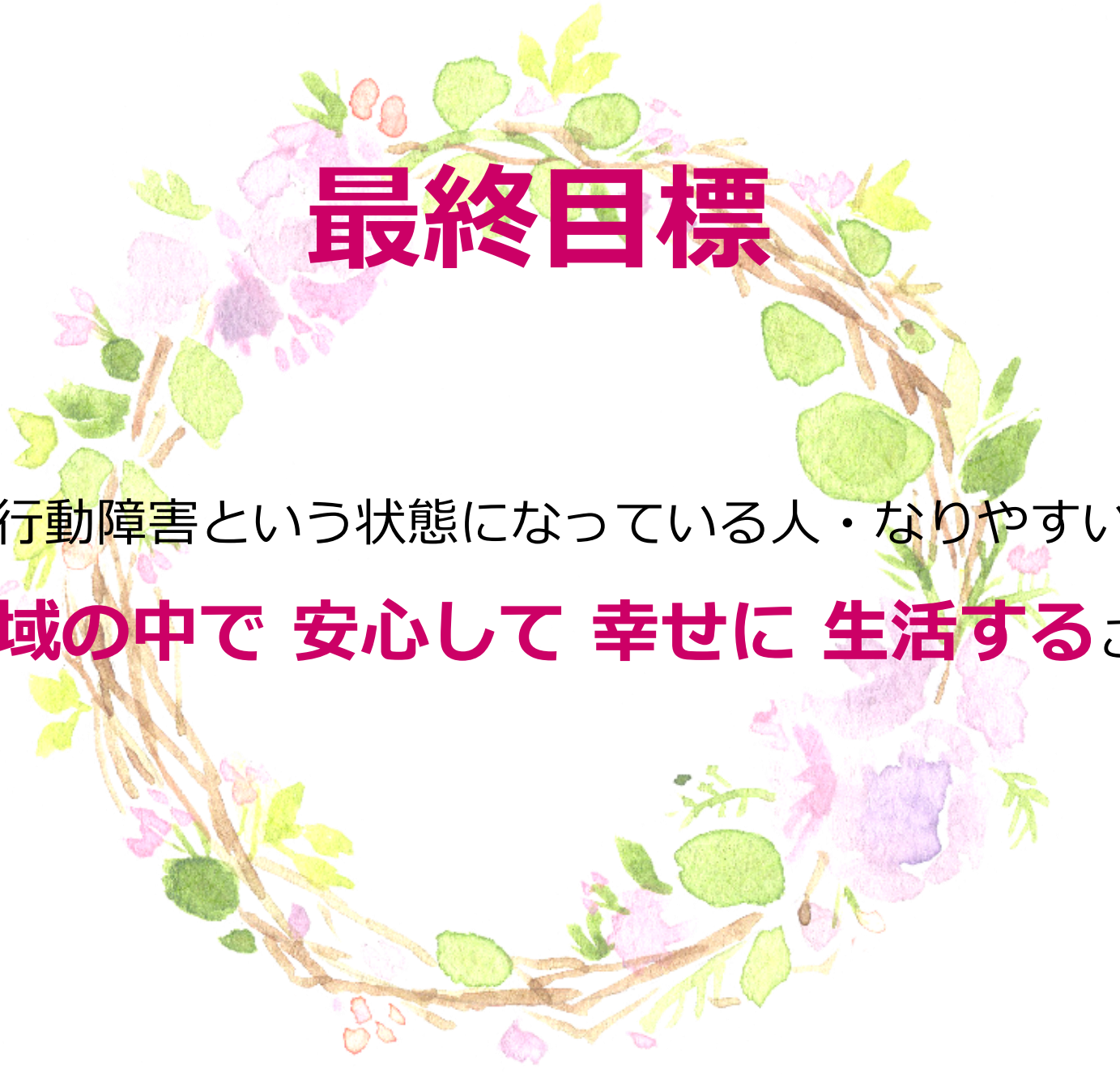
- ☑彼らの**社会参加**を進めることができる

ということを認識することが大切



動画を視聴します

過去に、強度行動障害の状態になったことのある鈴木さん（仮名）のお話



最終目標

強度行動障害という状態になっている人・なりやすい人が
地域の中で 安心して 幸せに 生活すること

強度行動障害の理解

- ・ 障 害 特 性 の 理 解

この時間で学ぶこと

- 関わる側の特性理解の不足による「環境面が整っていない状況」が、強度行動障害のリスクを高める要因となることがあります。
- 知的障害の程度が中度～最重度であり、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（以下、自閉症と記す）の特徴が強い人たちが、強度行動障害の状態になりやすいという現状があります。したがって、自閉症の方々の特性を理解しておくことが重要です。

この時間の流れ

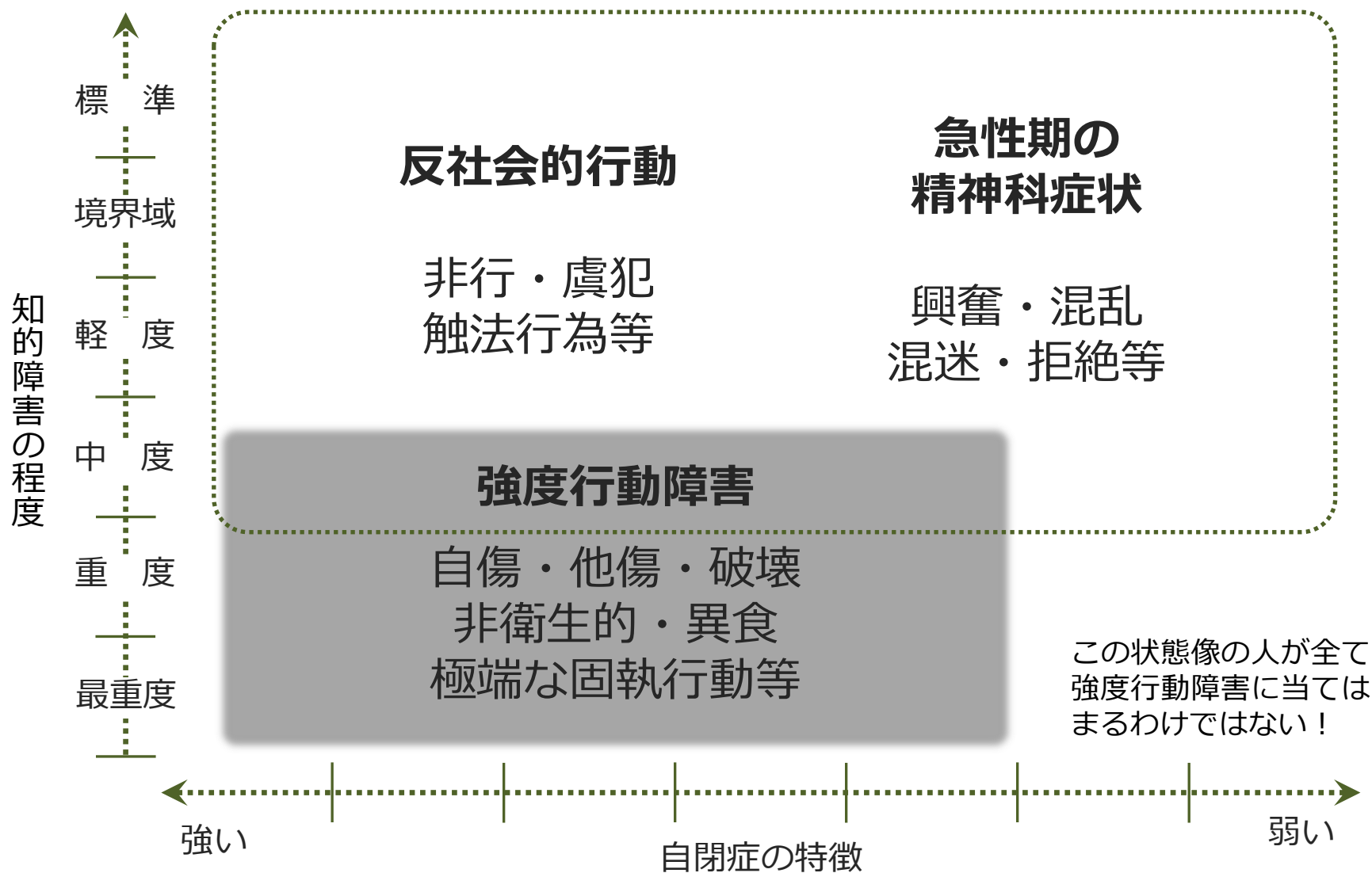
講義

 動画視聴

- ①なぜ自閉症の特性を学ぶのか
- ②自閉症について
- ③自閉症の特性を整理する
- ④学びと肯定的理解の重要性
- ⑤知的障害および精神障害について

①なぜ自閉症の特性を学ぶのか

強度行動障害になりやすいのは



強度行動障害と自閉症の関連性が高い
とされています。

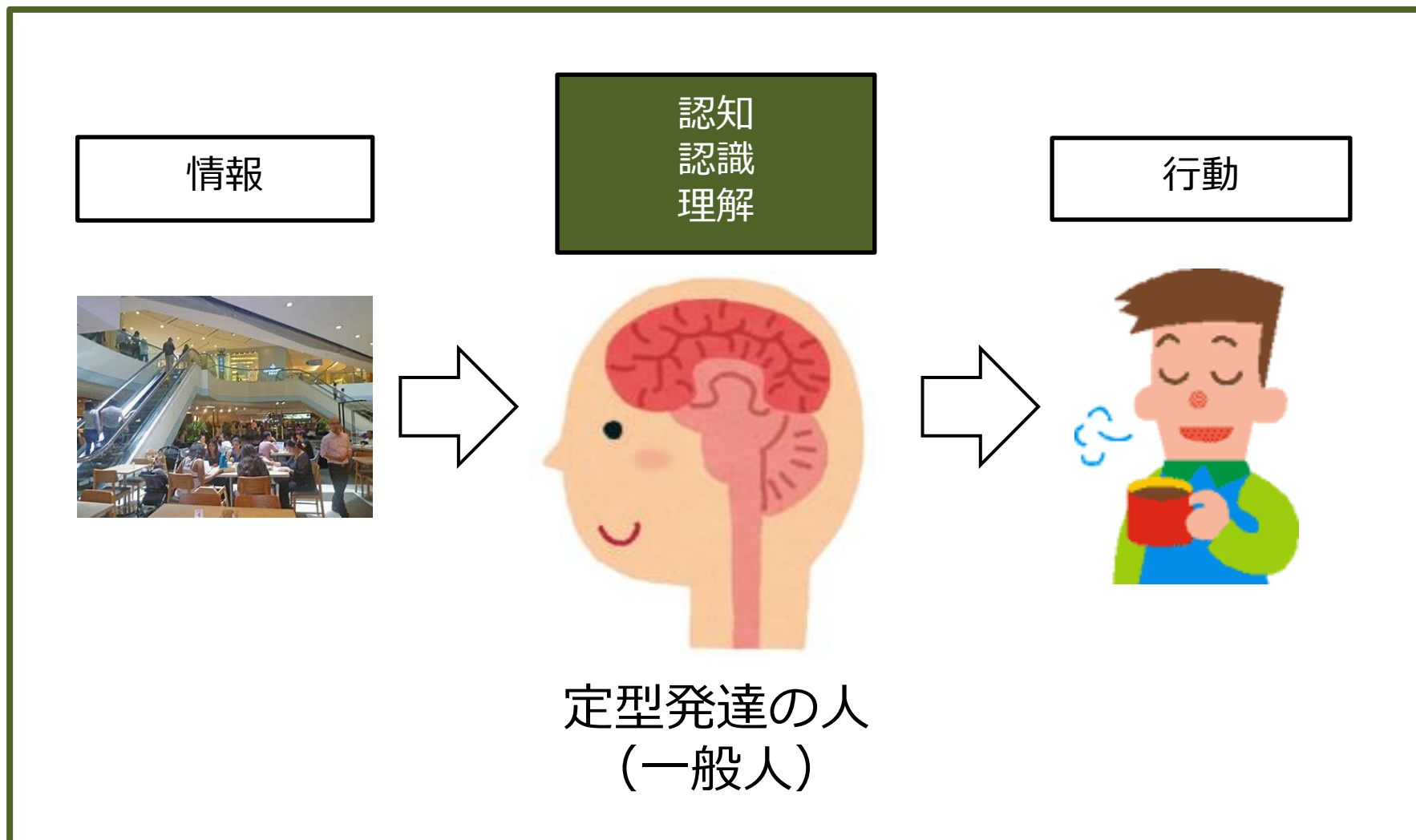
したがって、
強度行動障害への支援を学ぶためには、
まず自閉症のことを知ることが大切です。

②自閉症について

- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている



自閉症は脳の機能的な障害

情報



認知の違い
認識の違い
理解の違い

行動の違い



非定型発達の人
(発達に特性のある人)

③自閉症の特性を整理する

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

自閉症の人たちは社会では少数派です。

その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。

自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

特性とは

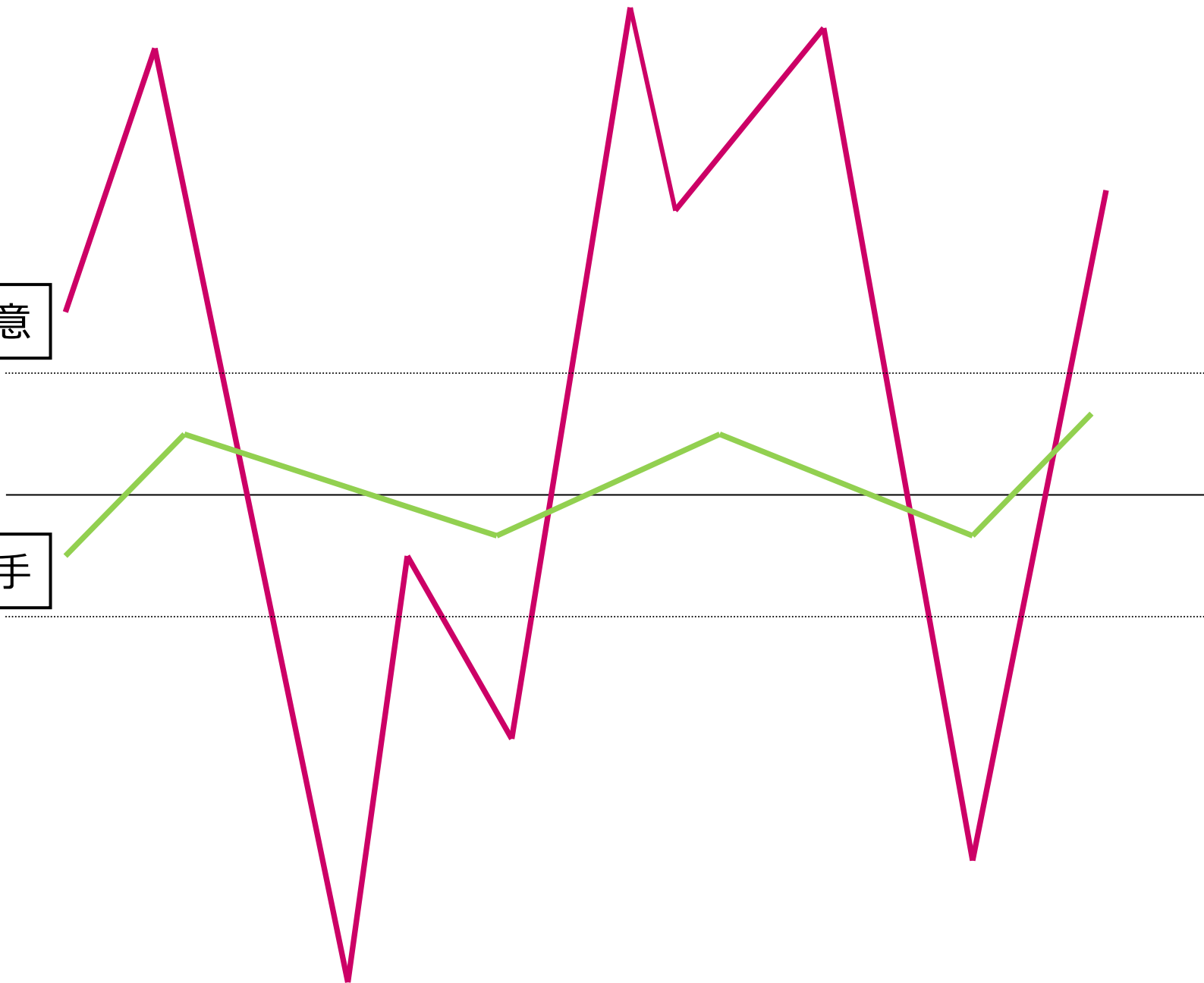
「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。

「強み」は支援に生かすもので、
「弱み」は支援者が配慮するところ と言えます。

それゆえ、特性の把握においては、
「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要
です。

得意

苦手



- 自閉症の人たちの

物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、
自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、
強度行動障害という状況に陥ることなく、
よりよい生活を送ることができます。

- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、
支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

- ・ 相手への関心が薄い
- ・ 相手から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

- ・ 周囲で起こっていることへの関心が薄い
- ・ 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 見えないものの理解が難しい

☆ 自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

- ・ 話し言葉の理解が難しい
- ・ 一度にたくさんのことを理解するのが難しい
- ・ 抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

- ・ 話し言葉で伝えることが難しい
- ・ どのようにして伝えたらいいか分からない
- ・ 誰に伝えていいか分からない

視点② コミュニケーションの特性

【やり取りが難しい】

- ・ 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- ・ 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
- ・ やり取りの量が多いと処理が難しい

☆話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

- ・段取りを適切に組むことが難しい
- ・なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
- ・今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

- ・先の予測をすることが難しい
- ・臨機応変に判断することが難しい
- ・自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

- ・ 興味・関心が狭くて強い
- ・ 細部が気になり違いに敏感
- ・ 少しの違いで大きな不安を感じる

☆目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

☆自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある
- ・触覚の過敏や鈍麻がある
- ・嗅覚の過敏や鈍麻がある
- ・味覚の過敏や鈍麻がある
- ・前庭覚の特有の感覚がある

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い。



ここで動画を見ます

④学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、
わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本に
いつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、

得意なことを把握することはとても大切です
（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

⑤知的障害および精神障害について

自閉症以外に、
強度行動障害に関連する障害として、
知的障害および精神障害があります。

知的障害の診断基準

- 知的機能に制約があること

IQ70未満が知的障害の目安

※知的機能＝言語理解力・論理的思考力・抽象的思考力・推理力・記憶力・
経験から学習する能力・概念形成能力・知的推理力

- 適応機能に制約があること

日常の社会生活を営む上で必要とされる能力や行動に制約がある

- 発達期に生じたものであること

概ね18歳以前に知的機能の制約と適応機能の制約が始まる

軽 度 IQ 50-69

成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当

中 度 IQ35-49

成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当

重 度 IQ20-34

成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当

最重度 IQ 20未満

成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10による。

精神障害について

- 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第五条）
- 精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者（障害者基本法第二条）
- 幻聴、妄想、体感幻覚、感情の平板化、意欲低下、ひきこもりなどの具体症状が現れる。

強度行動障害の理解

- ・ 困っていることの体験

この時間の受講環境について

- マイクは、ミュートにしておいてください。



※発表や質問時のほか、指示があった場合のみマイクをオンにしてください。

- カメラはオンにしておいてください。



※指示があった場合のみ、オフにしてください。

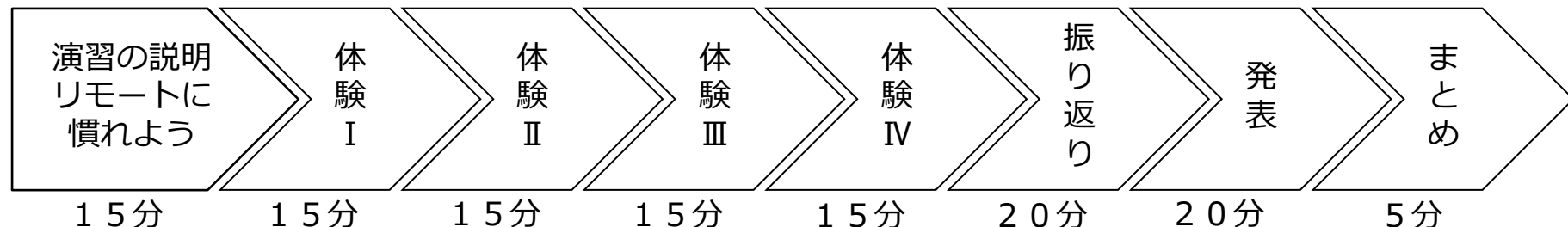
- 演習でチャットを使う場合は「全員に送る」を使います。

※指示があった場合のみ、チャットを使います。

この時間で学ぶこと

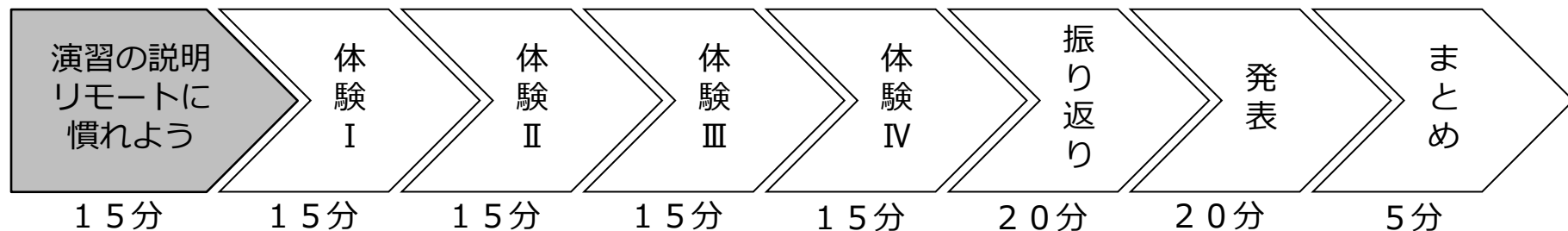
- 強度行動障害は本人が強い困惑を感じ、その解決策が見い出せないまま、なんとか抜け出そうともがいている状況と考えることもできます。
- この時間は、私たち支援者がどんな困惑を感じさせてしまっているのか、強度行動障害の状態にある方々の立場になって体験します。
- もちろん感じ方は人それぞれ違うと思いますが、自分たちの体験レベルよりもはるかに強い困惑を感じてこられた方々であるという思いを持ちながら研修を進めていければと思います。

演習の流れ



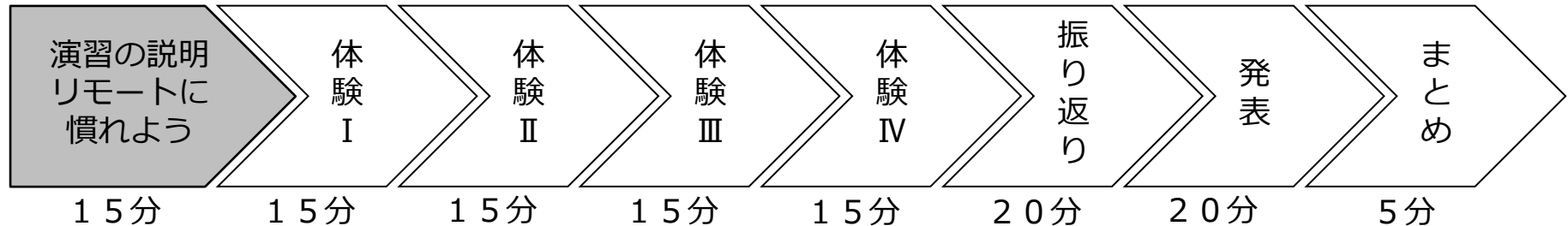
- まずリモート環境に慣れるために、いくつかのゲームをしましょう。
お互いの（心理的な）距離も縮まるかもしれません。
- 体験メニューは4パートあります。
何を体験しようとしているのかを考えながら、積極的に参加しましょう。
- 途中で何を感じたか、数名に発表してもら場面もあります。
- 最後にそれぞれで振り返りを行い、発表します。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ①



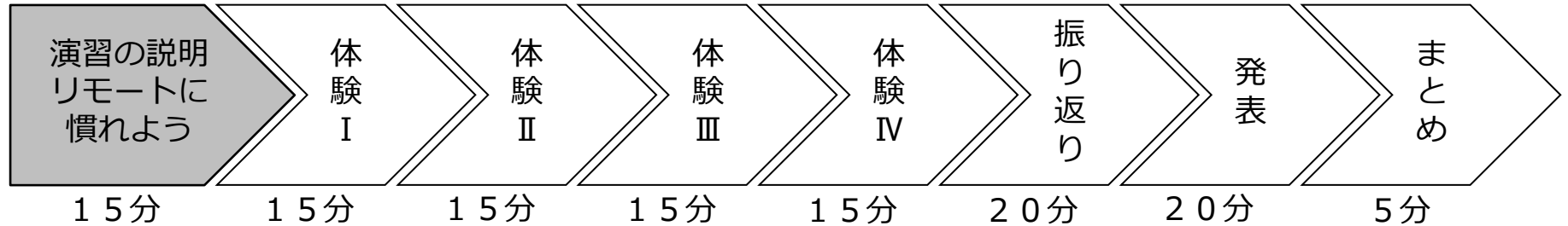
- まずはウォーミングアップ代わりにいくつかのゲームをしましょう。
- 最初にするのは、ジャンケン大会です。講師とみなさんが一斉にジャンケンをします。最後まで残る強運の持ち主はだれでしょうか。
- 全員**マイクはオフ、カメラはオン**でお願いします。
- 講師と一斉ジャンケンをして、
 負けた人はカメラをオフにしてください。
 勝った人とあいこの人はオンのままです。
- 最後に何名か残ったら、せっくなので、その人たちには**マイクをオン**にしてもらい自己紹介をしていただきます。「お名前」、「ご所属」、「今日はどこから研修に参加しているか」、「ステイホームで楽しんでいること」をお話いただきます。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ②



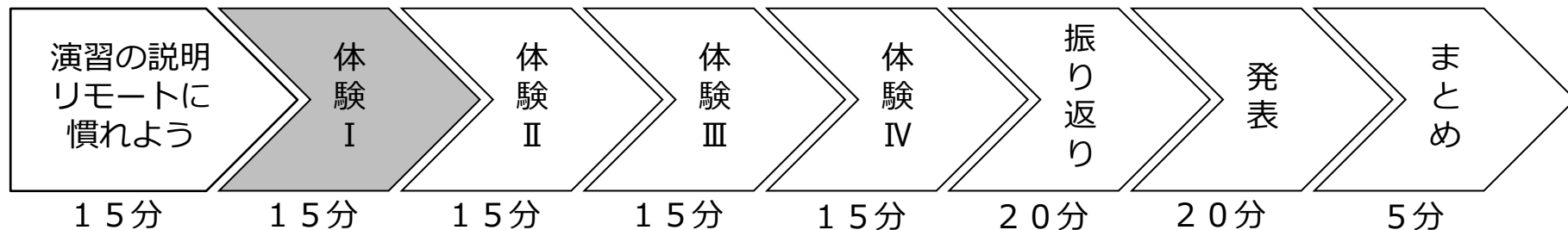
- 続いては、講師との共通点ゲームです。講師と共通点があってもうれしくないというか、かえって迷惑かもしれませんが、一応リモートに慣れるためのウォーミングアップのひとつということでお許してください。
- 講師がこれから自分のことを言います。それに当てはまらない人はカメラをオフにしてください。例えば、「ボクは男です」と言ったら、それに当てはまらない人、つまり女の人はカメラをオフにします。
- 最後に数名残ったら、せっかくなのでその人たちにも自己紹介をしていただきます。先ほどと同じく、お名前、ご所属、今日はどこから研修に参加しているか、ステイホームで楽しんでいることを話してください。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ③



- 最後は、みなさんに今日の番号をお伝えします。
- 演習の中でモデル的な役割を果たしてもらったり、発表してもらったりするときに、講師が番号を指定しますので、自分の番号を覚えておいてください。
- お一人ずつ番号をお伝えしますので、番号を聞いたらその番号を復唱してください。
それから**マイクをオフ**にします。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ①



- ○番の方にモデル役をお願いします。
- ここでの体験での対象者は、このモデル役の人になります。

• モデル役の人へ

➡みなさんに伝えてほしいことがあります。

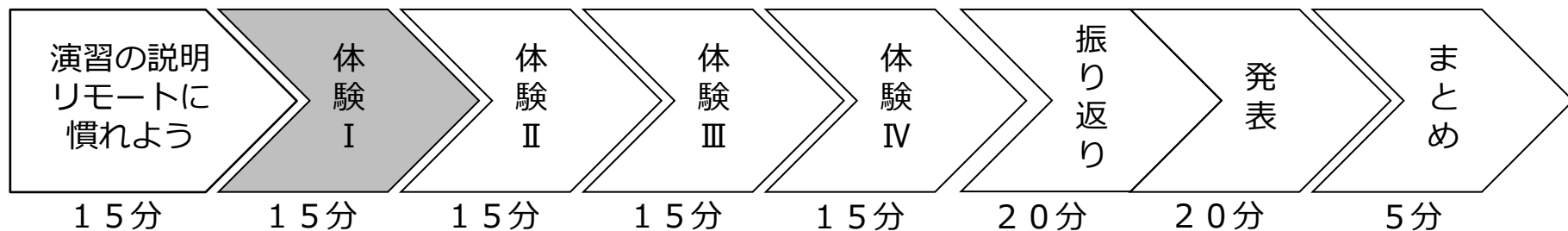
頭の中に自分の好きな食べ物を思い浮かべてください。

- その食べ物を顔全体は動かさずに首から上だけを使って伝えましょう。
- 残念ながら、口は開けないでください。口は閉じたままです。
でも頑張って必死に伝えましょう。

• モデル役以外の方へ

➡定期的に講師が番号を言いますので、その番号の方は**マイクをオン**にして回答してください。もちろん、わからないときは正直にそうお答えください。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ②



- 次は○番の方にモデル役をお願いします。

- **モデル役の人へ**

➡みなさんに伝えてほしいことがあります。

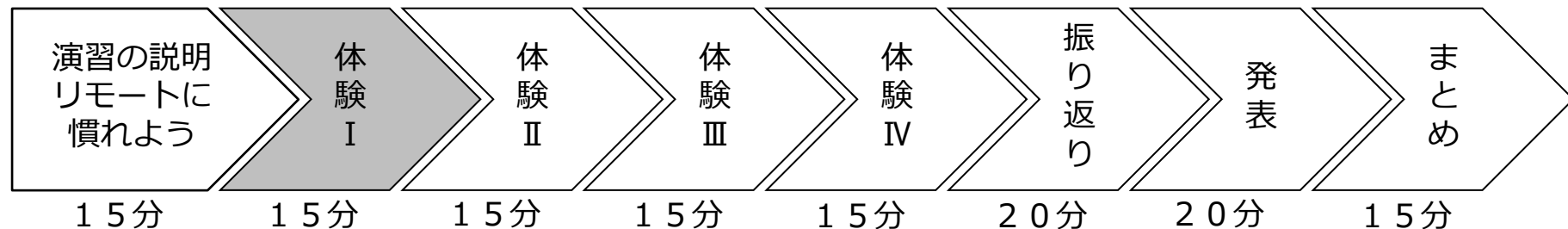
頭の中に自分の好きな動物を思い浮かべてください。

- その動物を顔全体は動かさずに首から上だけを使って伝えましょう。
- 残念ながら、口は開けないでください。口は閉じたままです。でも頑張って必死に伝えましょう。

- **モデル役以外の方へ**

➡定期的に講師から番号を言いますので、その番号の方は**マイクをオン**にして回答してください。もちろん、わからないときは正直にそうお答えください。前と異なるのは、数名の方を別に指名します。その方々は**マイクを最初からオン**にして、モデル役の方がパフォーマンスするたびに「わかんないなあ」「何なんだ？」など、否定的な言葉をつぶやいてください。

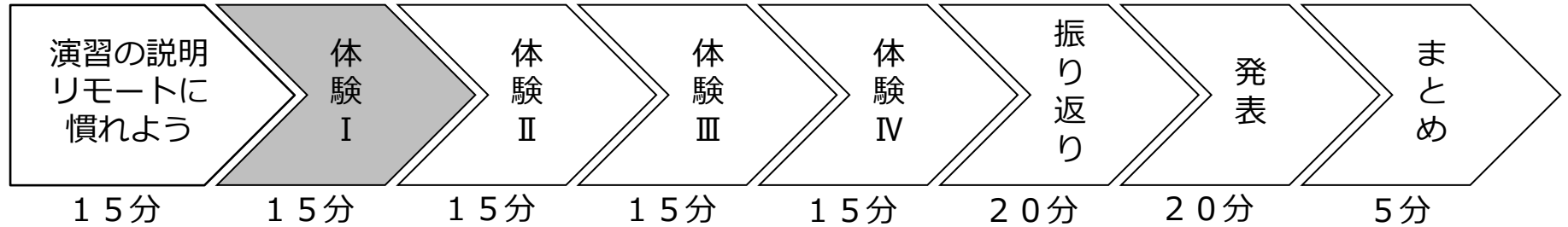
体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ③



ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。

この体験はモデル役の人が対象者なので、モデル役になった数名の方に聞いてみます。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ④



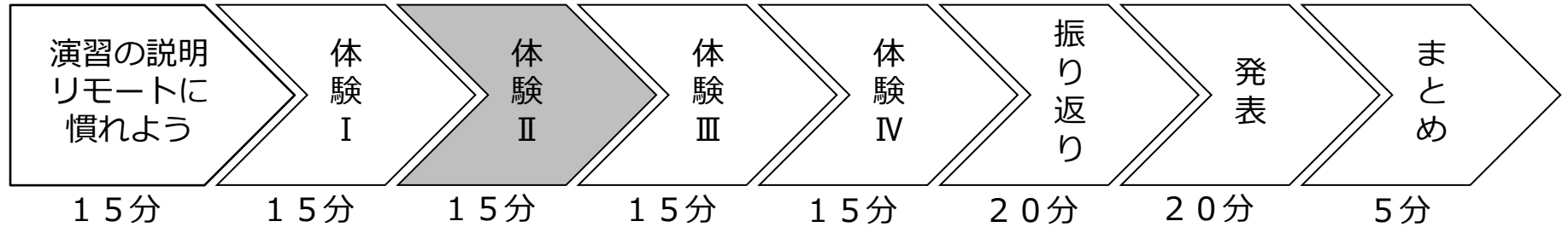
- ここでみなさんに体験してほしいかったこと

コミュニケーションの特性

【発信が難しい】

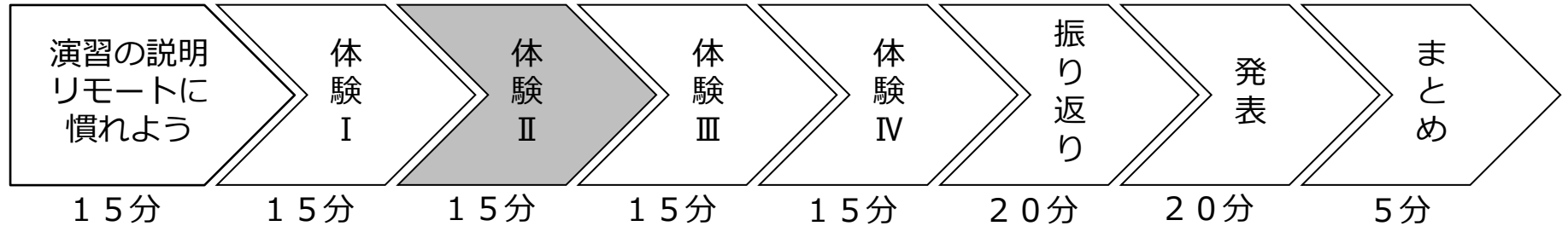
- ・ 話し言葉で伝えることが難しい
- ・ どのようにして伝えたらいいかわからない

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛①



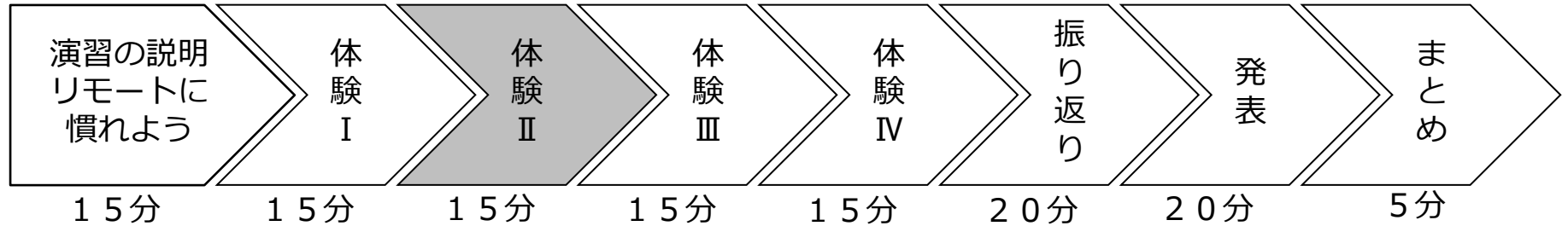
- この体験での対象者はみなさん全員です。
- 講師が言葉だけでとある漢字二文字の説明をします。みなさんはその言葉の情報だけでその漢字を再現してください。
- A4白紙にその漢字を描いてください。
- 講師の説明が終わったら、カメラに向かって漢字を提示していただきます。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛②



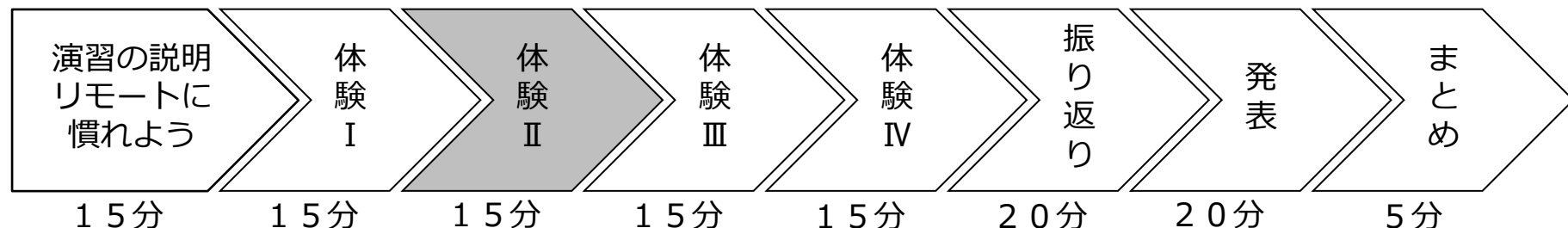
- 今度は講師が言葉だけでとある図形の説明をします。
みなさんはその言葉の情報だけでその図形を再現してください。
- A4白紙にその図形を描いてください。
- 説明が終わったら、カメラに向かって図形を提示していただきます。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はみなさんが対象者なので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクとカメラをオン**にしてください。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛④



- ここでみなさんに体験してほしいこと

コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

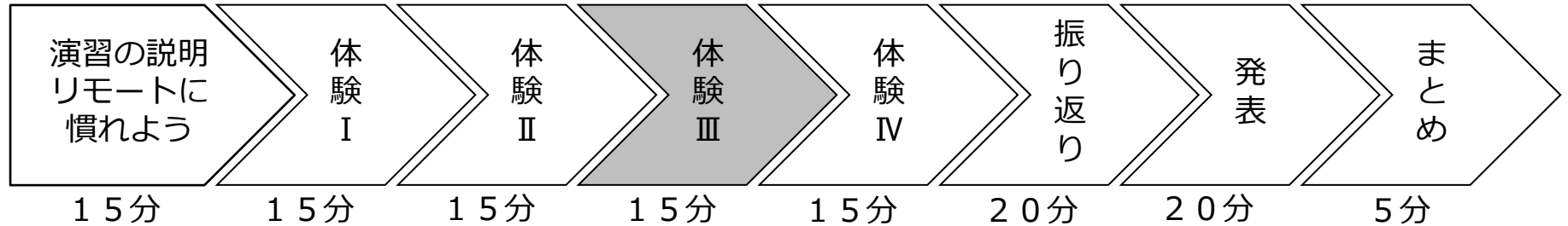
- 話し言葉の理解が難しい
- 抽象的であいまいな表現の理解が難しい

社会性の特性

【状況の理解が難しい】

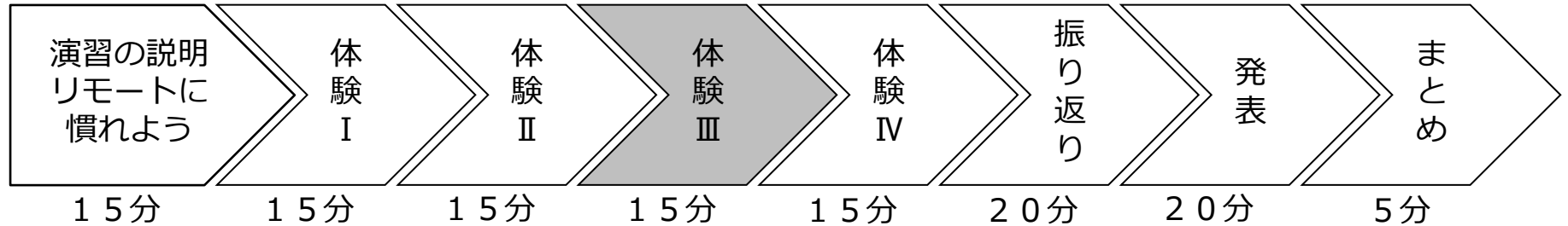
- 見えないものの理解が難しい

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖①



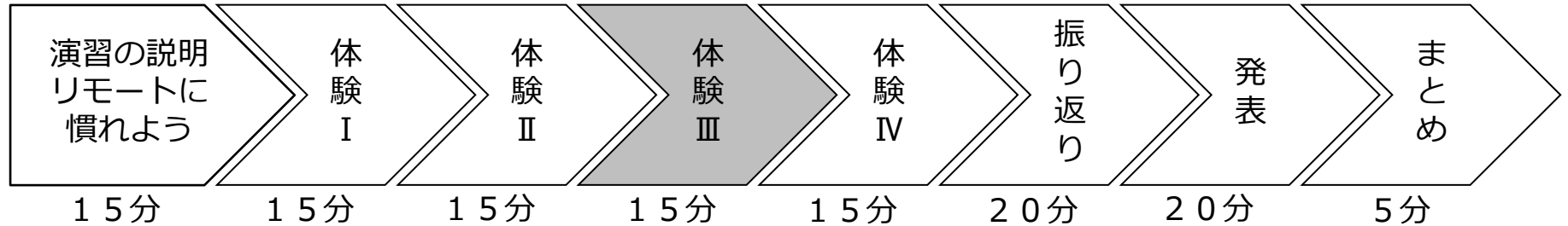
- この体験は一斉に行います。
- まずは、この動画をちょっとだけご覧ください。
体験の一部ですので、よく見ていてくださいね。
- そして、チャットから指示が出ますので、**チャット**に書き込めるようにしてください。

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖②



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験は全員が対象者になりましたので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクをオン**にしてください。

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖③



- ここでみなさんに体験してほしいかったこと

想像力の特性

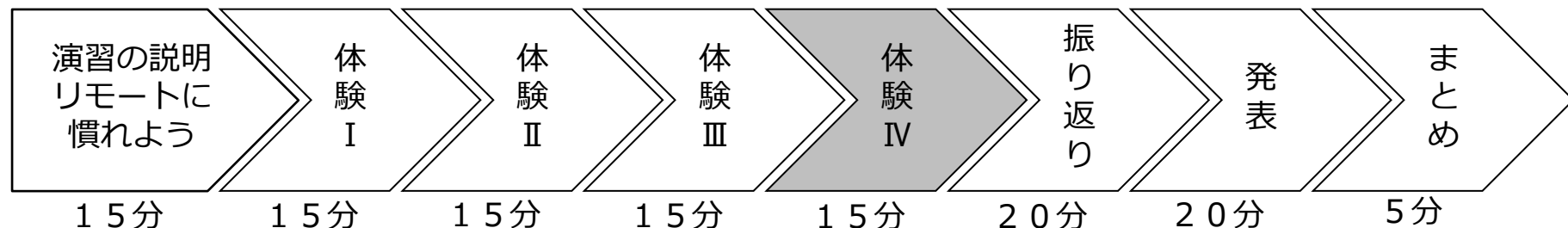
【自分で予定を立てることが難しい】

- 段取りを適切に組むことが難しい

【変化への対応が難しい】

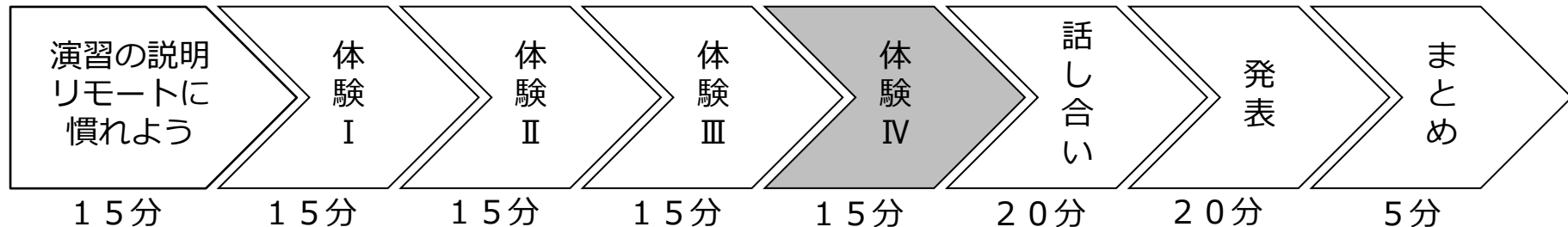
- 先の予測をすることが難しい

体験Ⅳ 感覚の特異性①



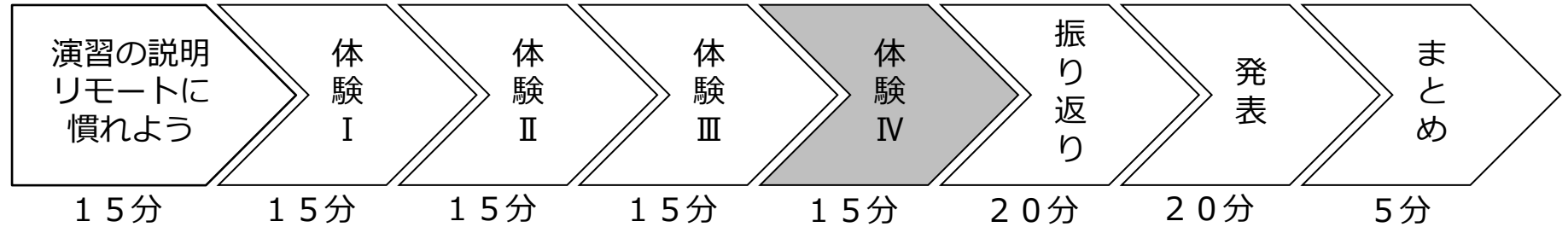
- ここでの体験は、ほぼ全員にご協力をいただき、5名の方が回答者（対象者）になります。
- 回答者は番号でお知らせしますので、その方は指名されたら**マイクをオン**にしてお答えください。
- それ以外の協力いただく方々は、指示がありましたら**マイクをオン**にしてください。
- 協力者の方々にはそれぞれ頭の中に行ってみたい観光地を思い浮かべてもらいます。それを同時に言っていただき、回答者（対象者）の人はどれだけ聞き取れるかという体験です。

体験Ⅳ 感覚の特異性②



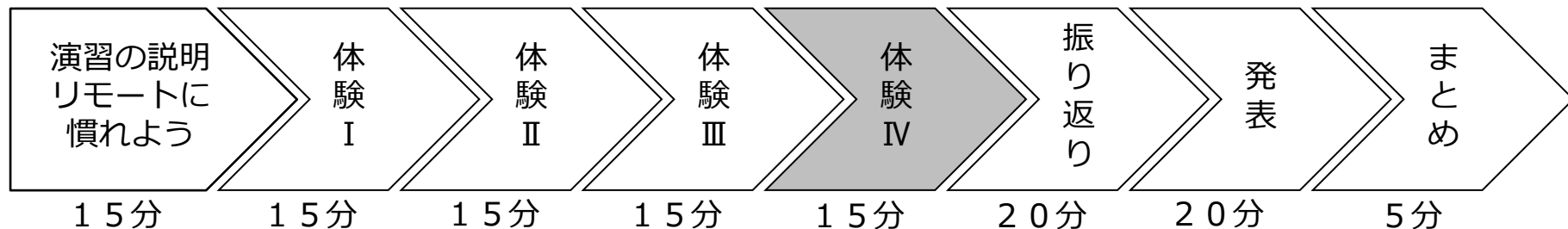
- 2つめの体験は、全員が対象者です。
- 講師がある写真を見せたり、ライトをカメラに近づけたりします。
- その刺激が少しでも不快に感じたり強く感じたりした人は目をつぶってください。

体験Ⅳ 感覚の特異性③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はほぼ全員が対象者になりましたので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクをオン**にしてください。

体験Ⅳ 感覚の特異性④



- ここでみなさんに体験してほしいこと

感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

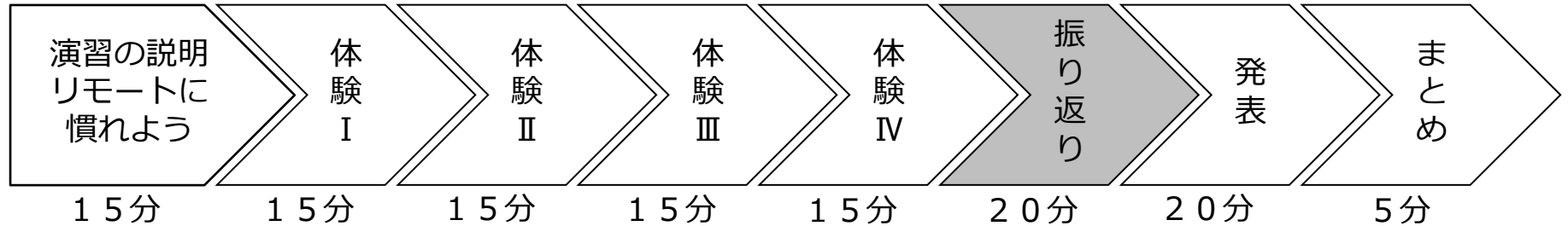
- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある

想像力の特性

【物の一部に対する強い興味】

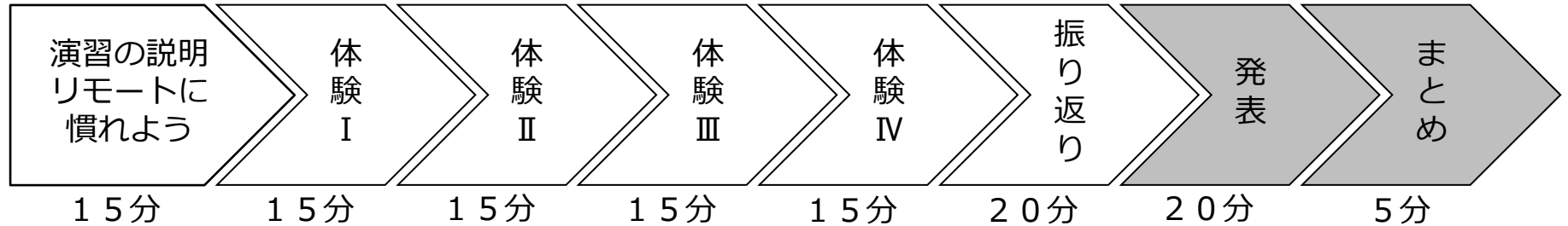
- ・興味関心が狭くて強い
- ・細部が気になり違いに敏感

振り返り



- グループに分かれて話し合います。
- この体験で自分が感じたことや考えたことをグループで交流します。
- せっかくなので、グループ内で自己紹介をしてから、司会者・発表者・記録者を決めます。記録者はチャットでワークシートが送られてきますので、それをダウンロードして記録します。グループ名をタイトル名に入れて保存し、またチャットに添付してください。発表のときにそのデータを使いますので。

発表・まとめ



- 発表役の方にグループで話し合われたことを報告してもらいます。
発表するときは**マイク**を**オン**にしてください。
- 最後に講師からまとめをしてこの演習は終了です。

支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

この時間で学ぶこと1

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害の状態になることを予防する支援を行うことができます。
- この時間は、自閉症の特性をベースにした予防的な支援の在り方を理解することがテーマです。

この時間で学ぶこと2

- また、本人の状態像の変化に応じて支援をリニューアルしていかないと、本人とのズレが生じてしまうこともあります。その場合は、改めて今までの支援を見直し、さらに支援の補整や補強を行っていきます。

この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の道筋
- ② 目で見てわかる支援が基本
- ③ 支援のポイントはどこにあるか
- ④ 具体的な支援のアイデアを動画で
- ⑤ 支援を見直すことの重要性

① 支援の道筋

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

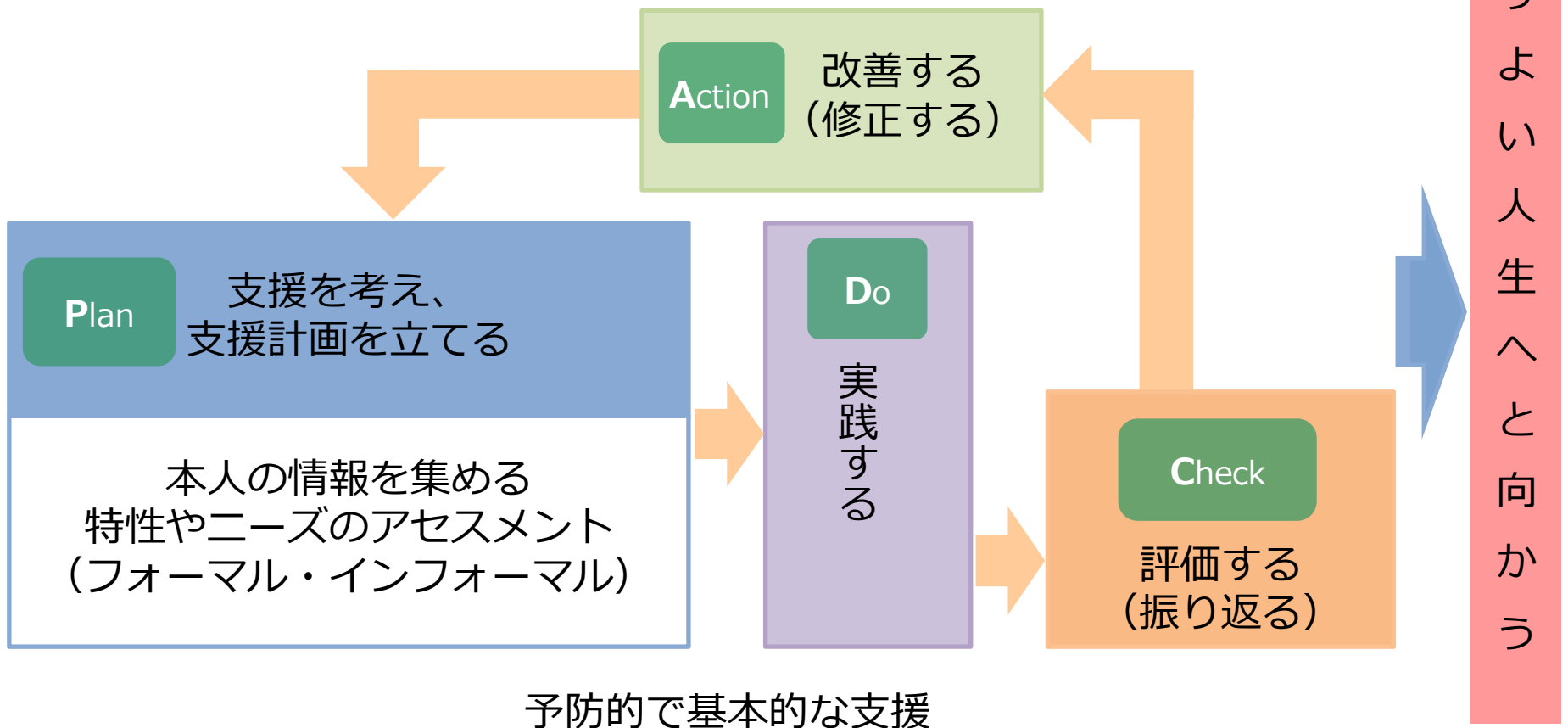
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、II について主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



② 目で見てわかる支援が基本

- 目で見てわかる支援をするのはなぜか？
 - 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
 - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
 - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

- 目で見てわかる支援をするために
 - わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
 - = その人に合わせた支援
 - = 合理的配慮

③ 支援のポイントはどこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- － 「いつ」
- － 「どこで」
- － 「何を」
- － 「どのくらい」
- － 「どうやって」
- － 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫
（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫

(活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが...
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために

－やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - －必要な情報に注目しやすくする工夫
 - －見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - －情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - ーコミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

④ 具体的な支援のアイデアを動画で



⑤ 支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

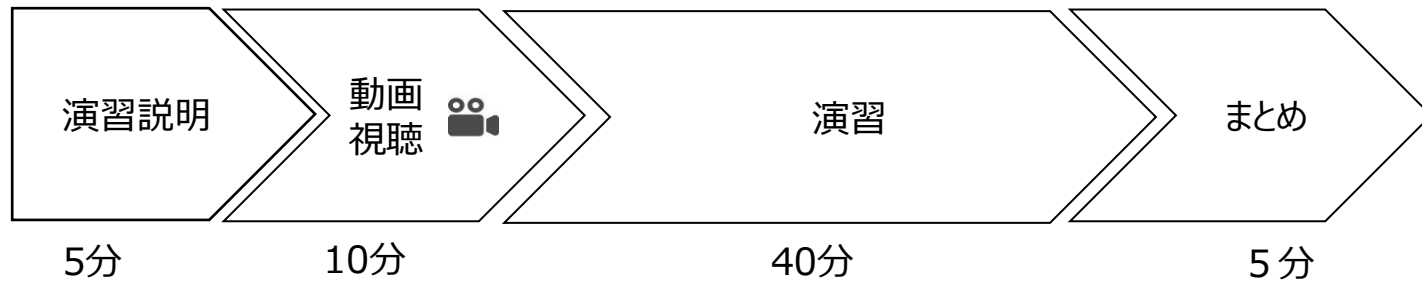
基本的な情報収集

- ・ 行 動 を 見 る 視 点

この時間で学ぶこと

- 強度行動障害で困っている人の行動は、立場や状況によって様々な定義をすることができます。
- 本当に困っているのは本人であることを確認します。
- 本人の困り感には障害特性が関連しており、関連する行動に注目して情報収集することで本人の情報処理のつまずきに気づくことが出来ることを確認します。
- 本人の特性を把握し、適切な環境を提案することが有効な支援のヒントになります。

この時間の流れ



- 動画を見ながら、講師と一緒にどのような行動に注目すべきかを確認していきます。
- 行動チェックシートの使い方を学びます。

「特性を把握する」という視点

- 個別の「障害特性」に対して周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての不適応行動が生じることがあります
- 本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
- 個別の困り感に対する合理的配慮が支援の基本となります
- その場合の合理的配慮は、「目で見えてわかる支援」を活用することがスタンダードとなっています

行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- ここでは、具体的な行動をどんな視点で観察したらよいかを学んでいきます。

田中さんの事例

- 田中さんの基本情報の確認
- 動画の視聴 

演習 | 行動に注目する

「行動チェックシート（アセスメント演習用）」を使って、行動の注目の仕方について学んでいきましょう。

行動チェックシート（アセスメント演習用）

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に 難しさがある	ア：視線が合わない	✓	ヘルパーが話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ：人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ：相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ：周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走って行く 周囲の安全を気にしている様子がない
		オ：周囲の状況に対して興味を示さない	✓	
		カ：危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	
コミュニケーション	理解が難しい	キ：言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない ヘルパーが終わろうと言ってもやめられない
		ク：言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ：相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	
	発信が難しい	コ：行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	()
		サ：言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ：言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス：やり取りがかみ合わない		ヘルパーの声掛けにはエコーリアで答えるだけ
		セ：やり取りが続かない	✓	
		ソ：唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ：やることがないときにウロウロしている、じっとしている		柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
		チ：自分から動くことができない	✓	
		ツ：予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ：自分のルールを変えると混乱することが多い		()
		ト：日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ：活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	
	物の一部に対する強い興味	ニ：特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
		ヌ：自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ：細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ：耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	()
		ハ：眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ：特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	()
		フ：著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、などの行動がある		
		ヘ：特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		活動の途中公園の柵につかまり揺れていた
		ホ：クルクル回る、ロッピングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	

社会性の特徴

社会性の特徴について、どのような行動をさすのか一緒に確認していきましょう

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に 難しさがある	ア: 視線が合わない	
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い	
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	

行動チェックシート

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない		
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	エ: 周囲に合わせて行動できない		
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	キ: 言葉で指示しても行動できない		
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	ス: やり取りが噛み合わない		
	セ: やり取りが読めない		
	ジ: 衝突に話し始めたり、黙り込むことがある		
	ズ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
想像力	チ: 自分から動くことができない		
	ツ: 予定の変更が必要になることが多い		
	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
	ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
	ナ: 活動を進んでやめたり、変更することができない		
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	ネ: 自分や周囲の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
	ノ: 細かいことが気になってやめることができないことがある		
	ハ: 目を動かす、特定の音を聴く、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
	ヒ: 指し指す、目を閉じる、電光石火を聴く、キョキキョキと泣く、などの行動がある		
感覚	ヘ: 特定の感触に敏感する、極度に嫌がる、または感じないような行動がある		
	ホ: 新しい・面白い・刺激の強い味を好む、同じものをばかり食べる、などの行動がある		
	ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたいがる、極度に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
	ヘ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、木登り等、身体が動かないのに特徴がある		
	ヘ: 特定の音に敏感なことがある		
	ヘ: 特定の音に敏感なことがある		

例えば このような行動に注目します

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	職員が話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走っていく
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしている様子がない
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	()

社会性の特徴

- 動画を見てみましょう 

実際に書き込んでみましょう

力：危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する 行動を記録しましょう

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア：視線が合わない	✓	職員が話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ：人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ：相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ：周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走っていく
		オ：周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしている様子がない
		力：危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	()

コミュニケーションの特性

コミュニケーションの特性について、どのような行動をさすのか一緒に確認していきましょう

	例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない	
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない	
		セ: やり取りが続かない	
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある	

行動チェックシート

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない		
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	エ: 周囲に合わせて行動できない		
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	ス: やり取りがかみ合わない		
	セ: やり取りが続かない		
	ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
	タ: 自分ですべてを立てることが難しい		
	チ: 自分から動くことができない		
	ツ: 予定の案外に混乱することが多い		
感覚	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
	ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
	ナ: 活動の途中でやめたり、変更することができない		
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	ホ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	ヘ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		

例えば このような行動に注目します

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わりと言ってもやめられない
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコラリア）	✓	（ ）
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	（ ）
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない	✓	ヘルパーの声掛けにはエコラリアで答えるだけ
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

コミュニケーションの特性

- 動画を見てみましょう 

実際に書き込んでみましょう

ケ：相手の言葉をそのまま繰り返す

コ：行動や仕草などで自分の気持ちを表す

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ：言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
		ク：言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わりと言ってもやめられない
		ケ：相手の言葉をそのまま繰り返す（エコラリア）	✓	()
	発信が難しい	コ：行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	()
		サ：言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ：言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス：やり取りがかみ合わない		
		セ：やり取りが続かない	✓	
		ソ：唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

想像力の特徴

想像力の特徴について、どのような行動をさすのか一緒に確認していきましょう

	例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている	
		チ: 自分から動くことができない	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い	
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い	
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い	
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある	

行動チェックシート

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない		
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	エ: 周囲に合わせて行動できない		
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
	ク: 言葉で指示されたことを嫌うことをする		
	コ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーア）		
	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを隠す		
	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	ス: やり取りがうまく合わない		
	セ: やり取りが読めない		
	ジ: 廣くに話し始めたり、黙り込むことがある		
	チ: 自分で予定を立てることが難しい		
	ツ: 自分から動くことができない		
	テ: 予定の変更に混乱することが多い		
想像力	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
	ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
	ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
	ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	ア: 目を動かす、特定の音を感じる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
	イ: 指を閉じる、目を閉じる、蛍光灯を壊す、キラキラに没頭する、などの行動がある		
	ウ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
	エ: 辛い食べ物、刺激の強い味を好む、同じものをばかり食べる、などの行動がある		
	オ: 特定の臭い、味、色、温度に嫌がる、嫌いで入れない場所がある、などの行動がある		
	カ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体が動かし方に特徴がある		

例えば このような行動に注目します

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない () 水へのこだわりがある
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

想像力の特徴

- 動画を見てみましょう 

実際に書き込んでみましょう

ナ：活動の途中でやめたり変更することができない

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ： やることがないときにウロウロしている、じっとしている		柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
		チ： 自分から動くことができない	✓	
		ツ： 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ： 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト： 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ： 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	()
	物の一部に対する強い興味	ニ： 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
		ヌ： 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ： 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

感覚の特性

感覚の特性について、どのような行動をさすのか一緒に確認していきましょう

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
		エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
		コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
	発信が難しい	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 簡単に話し始めたり、黙り返ることがある		
	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウツカしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更と混乱することが多い		
感覚	感覚が敏感または鈍感	テ: 自分のルールを変えたと混乱することが多い		
		ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を通してやり取り、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ネ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ノ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ハ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ヘ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

例えば このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	() キラキラした刺激が好き
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		()
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	

感覚の特性

- 動画を見てみましょう 

実際に書き込んでみましょう

ノ：耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、など

ヒ：特定の感触に没頭する、特定の感触を極端に嫌がる、または感じない、など

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ： 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	()
		ハ： 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き
		ヒ： 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	()
		フ： 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じもののばかり食べる、など行動がある		
		ヘ： 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ： クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	

行動に注目すること

- この後の演習では、「水遊びを止められて自傷をする」という田中さんの行動について、その背景を探っていき、必要なサポートを整理します。
- しかし、水遊びや自傷だけに注目するのではなく、田中さんがさまざまな苦手さをもっていることに気がつきましたか。
- 検討すべき行動を探すためだけではなく、特性に気づくためにも客観的な観察が必要です。

まとめ

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

- 本人の行動をヒントに
- 特性に気づき
- 適切な支援を組み立てていくことで



支援も本人の活動も成功しやすくなります